



尼崎巡り with 留学生

吉岡です!! 今回の尼崎巡りは留学生の林さん(台湾)とズラさん(インドネシア)と巡ります。まずは阪神尼崎駅すぐの「中央商店街」へ。ズラさんは活気ある商店街の雰囲気が地元と似ていて懐かしかったそうです。

ランチは創業82年の老舗「グリル・オリент」...の予定が見当たらない。気を取り直してお隣「三和本通り商店街」へ。ここも活気あふれる商店街。噂に聞いていた怪しげなスポット「来

恋夢神社」へ。(わ〜...鳥居ピンク〜)そこでデューク更家のお弟子さんに遭遇した話は内緒。

活気ある商店街を堪能して次なるスポット「寺町」へ向かいます。と思ったらまさかの「グリル・オリент」発見! 念願の老舗洋食でオムライス。(私はミートスパゲッティ。おいしかった!) みんなで老舗の味を味わって寺町へ。ここはさすが寺町。なんと11軒ものお寺が並んでいて、全国でも今は御朱印ツアーが人気だそうです。普段非公開なものの写真を拝見したり、スタンプを集めたりして、町から切り離された少し荘厳な雰囲気を味わいました。最後は世界の貯金箱博物館へ。特別展「忍者と侍の世界展」もやっていました。思わぬ手裏剣や刀に留学生大盛り上がり! そして世界の貯金箱をみて今回の尼崎巡りは終了! 「豚の貯金箱って世界共通なんだな〜」



No.7
2016 July



〈地域〉と〈大学〉をつなぐ
経験値教育プログラム



園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部
地域連携推進機構
〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7丁目29-1
TEL: 06-6429-9921 FAX: 06-6422-8523
E-mail: chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp

Newsletter



地域歴史遺産としての怪異伝承 〜『尼崎百物語』を起点に〜



「地域創生に資する実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」事業のうち「歴史と文化」領域の取り組みについて、地域の歴史文化を学び、地域社会を担う人材を育成する重要性について語られた。

次に大江氏から「怪を語ればふるさとへ至る一怪異学と地域創生」として報告があった。尼崎というと近代の工業都市と思われがちだが、古代から交通の要所として栄え、豊かな伝承が伝わる。荒唐無稽と切り捨てられがちな怪異伝承だが、地域に暮らす人々の生活に根ざした文化、記憶を伝える歴史文化遺産として再評価すべきと指摘された。

休憩をはさんで、久禮旦雄氏(モラロジー研究所研究員)の報告があった。久禮氏は本学の協力研究員であり、『尼崎百物語』執筆者の一人でもある。久禮氏からは「怪異・妖怪伝承とデータベース—地域における知識のあり方をめぐって—」として、全国におけるデータベース作成の試みとその問題点が指摘された。

ついで堤邦彦氏(京都精華大学)からは、「尼崎の耳無し芳一伝説—近世怪異小説を起点として—」として、有名な耳無し芳一伝説の源流に尼崎の地名が出ていることを指摘され、そのうえで播磨灘一円に流布した平家の鎮魂伝承との関係が述べられた。

ディスカッションでは、怪異伝承から土地の記憶を掘り起こす意義や難しさ、人文学研究を活かした地域創生について議論された。

大学COC+シンポジウム
堤邦彦 × 久禮旦雄 ×
村井良介 × 大江篤

2016年7月16日(土)、尼崎商工会議所において、大学COC+シンポジウムが開催された。これは4月に本学教授大江篤氏が編者となった『尼崎百物語』(神戸新聞総合出版センター)刊行をうけて企画されたものである。『尼崎百物語』は、地域志向教育研究の成果であり、園田学園女子大学が作成中の、尼崎市に伝わる伝説、昔話のデータベースをもとに、100話を厳選し解説した書籍。本シンポジウムでは『尼崎百物語』掲載の怪異伝承をもとに、多様な地域の文化を伝える歴史遺産として伝承を継承する重要性や、どのように地域創生に活用するかが討議された。

まず本学学長、川島明子氏による開会挨拶があり、村井良介氏(神戸大学地域連携推進室特命准教授)から、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)のなかで兵庫県が推進する

第3回

まちづくり解剖学



「留学生との交流を通じて異文化理解を深める」

8/4(木) 18:15~20:00 まちづくり解剖学終了後20:00まで懇親会を行います。(懇親会費 700円)

園田学園女子大学
30周年記念館(5号館) 2階チャティー

■村端 慶治(園田学園女子大学 国際交流センター所長)

■「留学生からみた日本」

ズライダー スリ ハンダヤニ グルトム(ブンハッタ大学)・林 宜璇(開南大学)

※要申し込み お申し込み先; <http://www.sonoda-u.ac.jp/chiiki/smail3/>





地域志向科目「つながりプロジェクト⑧」
地域日本語教育への提言—ボランティア育成の実践と課題—



グローバル社会に向け異文化共生がクローズアップされていますが、近隣に住む外国の方と接する機会はそんなに多くありません。

本プロジェクトでは、日本語ボランティア学級に参加させていただき、異文化に直接対面することで、コミュニケーションスキルを身に付け、国際的な経験値を上げることに取り組んでいます。

学外活動の前には、各自、日本語教育・異文化交流・海外事情などについて調べ、レポートを発表しディスカッションをする中で、日本という国の特殊性に思い至り、日本の常識が必ずしも世界に通用しないという共通理解を得ました。お箸で食べる人口より手で食べる人口のほうが多いとか、音を立てて麺をすすっていいのは日本だけだとか、細かい事から文明比較まで、様々な話題が出ました。また、外国人にとって日本語の発

音はサ行やハ行、清音と濁音の区別が特に難しいなど、日本語の基本知識についても学びました。

学外活動では、ベトナムやタイ、中国などの外国人学習者と日本語ボランティアの方のマンツーマン授業に参加させていただき、日本語教科書の読解や、漢字練習、難しい言葉の説明など、日本語学習のお手伝いをさせていただきました。若い学習者とは、国で流行っている日本のアニメやアイドルなどの話題で盛り上がり、年長の学習者からは、食生活など文化・習慣の違いについてお話を伺い、大変有意義な異文化交流となりました。

つながりプロジェクト⑧
担当：吉永尚



地域志向科目「つながりプロジェクト①」
地域日本語教育への提言—ボランティア育成の実践と課題—



このプロジェクトは、『教育の情報化による「よりわかりやすい授業」の実現に向けて』がテーマです。情報通信技術が急速に進展する社会において、学校教育でもその技術（ICT：Information and Communication Technology）を活用した授業展開が各地ではじまっています。これら教育の情報化は、2020年度を目標にして環境整備が行われています。尼崎市には、小学校41校、中学校17校、高等学校が2校ありますが、全国的に見ても、ICT環境の整備は進んでいる方ではありません。そのため授業でのICT活用事例が蓄積されていません。そこで、このプロジェクトでは、ICT環境が整う近い将

来を見据え、地域の小学校・中学校をモデル校として協働し、各教科の授業の中でタブレット端末を活用する、よりわかりやすい授業を展開する事例をひとつでも多く提案することを予定しています。

プロジェクトの活動として、授業でのICT活用のアイデアを得るために、5～6月には、尼崎市立明和小学校でのデジタル教科書と電子黒板を活用した6年生の社会科の授業と、尼崎市立小田北中学校でのタブレット端末を使ったグループ学習を取り入れた2年生の英語の授業を見学しました。さらに授業見学だけでな



く、見学をした授業担当の先生方を大学にお招きをし、見学したのと同じ内容のものを、小学生や中学生になったつもりで授業を受けることを行いました。

これらの体験から、学校現場の教員に役立てるような授業の事例をひとつでも多く提案するようにしたいです。

つながりプロジェクト①
担当：小田桐 良一



地域志向科目「つながりプロジェクト⑬」
『尼崎の女性センターを知り、男女共同参画社会を考える』

このプロジェクトでは、尼崎市女性センターの歴史や役割を知り、女性問題や男女共同参画社会を目指すために取り組まなければならない課題は、自分と繋がっているということに気づき、解決策を一緒に考えます。女性への暴力（DV）、とりわけデートDV（交際中の若いカップルの間で起こる暴力）は、学生にとって身近な問題です。

DV、デートDVを防止するために、ワークを通して解決策を考えます。

また、各分野で活躍している女性ゲストスピーカーからお話を直接聞くことによって、ミッションと責任を持って活動する自立した生き方を、学生たち自身の将来の参考にしてほしいと考えています。

6月25日には、尼崎市女性センター主催 平成28年度男女共同参画週間事業「性暴力被害者支援を考える～性暴力救援センター・大阪SACHICOの取り組み～」に学生も参加しました。産婦人科医で性暴力救援センター・大阪SACHICO代表の加藤治子さんは、40年にわたり性暴力に遭った被害者に寄り添い活動されています。学生たちは性被害の実態に驚いたと思いますが、ひとりの女性として、また、将来看護師や教職員等をめざす者として、対処法や相談先を知っておくことの大切さに気付いてくれたと感じています。

つながりプロジェクト⑬
担当：尼崎市女性センター・トレピエ 岩田さやか

